

## ●光触媒コーティング（内装用）の塗膜強度について

### 【概要】

- ・光触媒コーティング剤の塗膜強度について簡単な指擦りテストを実施した。

### 【テスト内容】

1. アクリル板に対して、スプレーガンにて光触媒コーティング剤（内装用）の塗布加工を行った。  
※塗膜が確認しやすいよう、基材の色を黒色にした。  
※密着性が確認しやすいよう、吸水性の無い平滑な基材を選択した。  
※2種類の光触媒コーティング剤を塗布加工した。
2. 塗布加工後、常温にて2日間程度乾燥させた。
3. 各塗膜を指で擦り、塗膜の強度を目視にて確認した。

### 【結果】

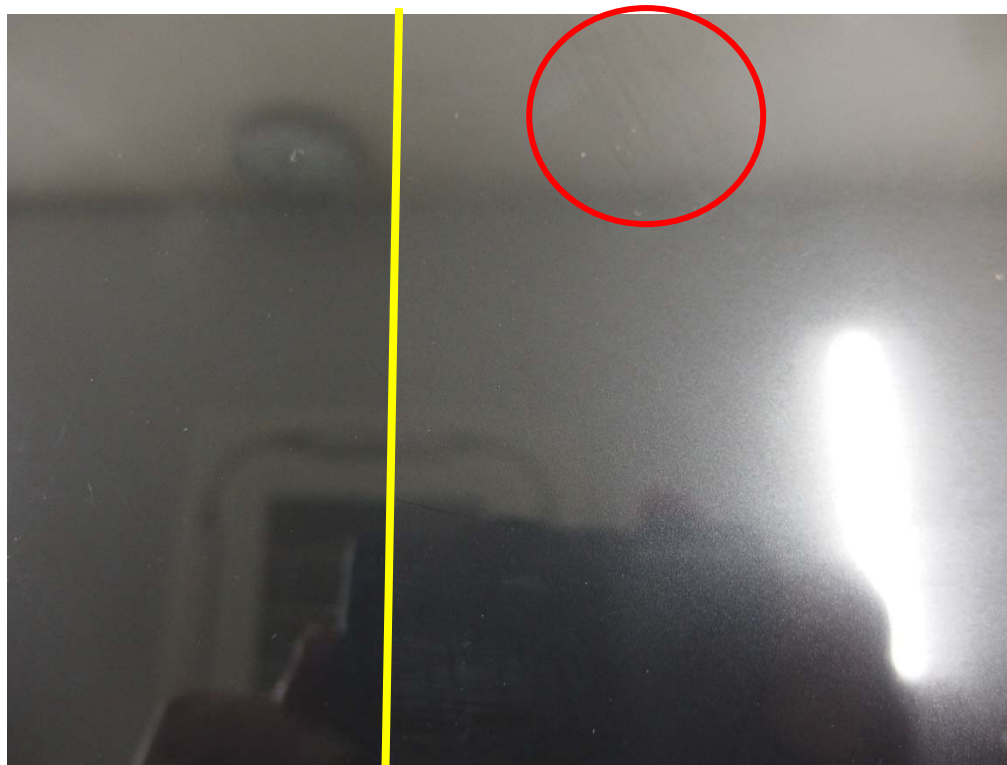
- ・A社の光触媒コーティング剤を塗布した塗膜は、指で擦ると簡単に剥離した。  
一方、B社の塗膜は、指で擦った程度では剥離せず、爪を立てて擦るとわずかに剥離が見られた。

### ◆A社の塗膜



※黄色のラインより右側へ塗布加工を実施。

◆B 社の塗膜



※黄色のラインより右側へ塗布加工を実施。

【まとめ】

・光触媒コーティング剤を抗菌・抗ウイルス等を目的として、内装面に塗布施工する場合に重要な事は、①光触媒が可視光線等に反応し、求める効果を発現する事。②コーティングである以上、ある程度の塗膜強度を有する事。と考えられる。

今回の A 社のテスト結果のように、指で擦ると簡単に塗膜が剥離する程度の塗膜強度であれば、通常摩擦が起こらない箇所に対しては良いかもしれないが、人が触る箇所（摩擦が発生する箇所）においては、塗膜が剥離し、抗菌・抗ウイルス効果を目的とする場合は、持続性が期待出来ない。

光触媒の長所が、コーティング施工すれば、日常の環境下で触媒反応により効果が持続する事と考えれば、ある程度の塗膜強度があった方が良いと思われる。（例えば、水拭き程度では剥離しない等。）